

**○*Ranunculus subcorymbosus* Komarov の正体 (原 寛) Hiroshi HARA:**  
The identity of *Ranunculus subcorymbosus* Komarov

最近、地下に長い匍枝を出すオオウマノアシガタ類に対し *Ranunculus subcorymbosus* Komarov の学名を起用する説が出されているがこれには納得できない点が多い。1937年この類を私が初めて扱い、1943年本誌 19: 357-360 でこの群をまとめて以来その学名については注意し続けているが、今でも最も確実なのはやはり *R. grandis* Honda を採用しておくことであるという考に変わりがない。

そもそもこのような考は Woroschilov (1966) が *R. grandis* を *R. subcorymbosus* の異名にいれ、検索表でこれを *R. novus* と共に伏臥した地下茎をもつものとしたことに起因している。しかしこれには理解できない点がふくまれている。この *R. novus* (*R. acris* var. *nipponicus* Hara) は学名からは明らかにミヤマキンボウゲを指しているが、それは地下に匍枝を出さないことが確認されているので彼の検索表はこの点で矛盾している。彼は *R. subcorymbosus* は *R. novus* に比べ花が大きく卵黄色で茎の毛が少いなどで区別しているが匍枝にはふれていない。なお *R. transchochotensis* が色丹島から報告されているがはっきり分らないと付記していて、私共がこの類の区別点と考えた匍枝の有無、そう果の形、染色体については観察していない。

もともとヨーロッパの学者は東亜のミヤマキンボウゲ群に匍枝をもち、かつ4又は6倍体である群があることには気付かず、ただ東亜のものには *R. acris* とはかなり異なるものがあることを重視して幾つかの種を記載してきた。カムチャツカの *R. subcorymbosus* もその一であり近年のソ聯の学者の扱いもその考の延長のようである。

*R. subcorymbosus* は Komarov (1929) によって正確に図解されており、私は1954年その等価基準標本の副品を Kew および Paris で検討したが、茎は無毛で若葉と花梗に伏毛があり花は大きく柱頭はかなり鈎曲しており勿論匍枝はなくミヤマキンボウゲに近いものであった。今回念のためレニングラードのコマロフ植物研究所に基準標本の選定を頼み匍枝を出すものが交っていないか見てくれと依頼した結果 Fig. 1 の写真を送ってきてくれた。この標本も比較的太い根が叢生しているが匍枝は出していない。

またカムチャツカの植物に精通している Hultén 博士は最近この匍枝を出す類を別種とする扱いに賛意を表し、アリュウシャン産に *R. grandis* var. *austrokurilensis* の学名を採用しているが、カムチャツカ産はこれに入れていないことはカムチャツカでは匍枝を出すものを採集していないためと解される。しかしカムチャツカに匍枝を出すものが見出される可能性はまだ残されている。

今後東亜の各地域において更に詳しい個体群の解析が行われ細胞遺伝学的の研究が進んだ際に初めてこれら植物群相互の関係が明確になると思われる。

なお日本附近のキンボウゲ群の種の区分についての田村博士 (1970) の見解は、原・

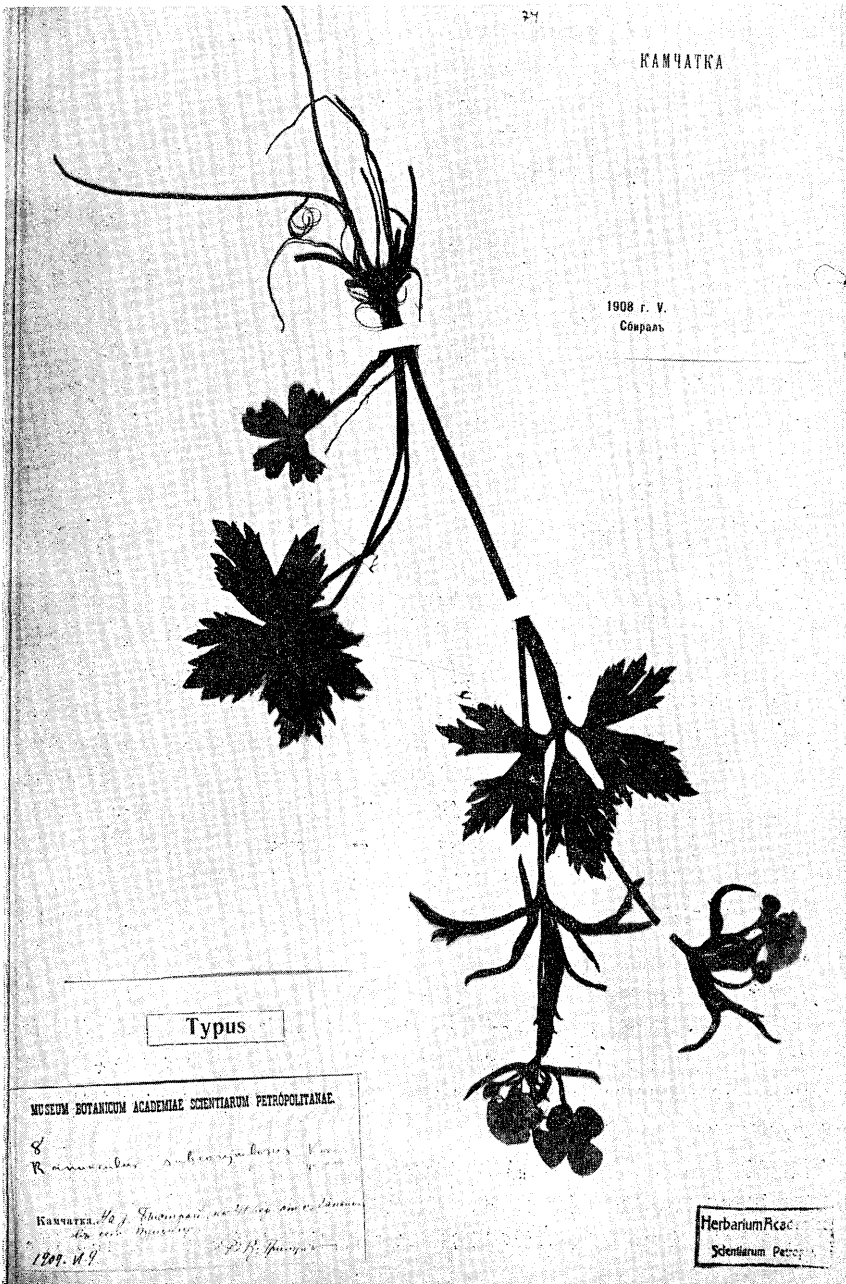


Fig. 1. *Ranunculus subcorymbosus* Komarov. The lectotype specimen in Leningrad (LE).

黒沢 (1956) の結論と全く同一である。しかしキンボウゲとオオウマノアシガタの2種において毛の性質によりおのおの2亜種に分類している。毛が開出するか伏臥するかは相当に変異性が強いことを認めながら一方便的なものであるとしてこれを亜種の違いとして扱っている。このような変異性の高い植物群で変り易い単一の形質を重視して変種を亜種にまとめることは各植物群の相互関係を論ずる際に誤った先入観をいれる恐れがあって賛成できない。

アカギキンボウゲの型も本州中部で赤城山の特産ではなく栃木県、山梨県などにも見られる。一方大陸側に広く分布しているノハラキンボウゲの型に対する最も早い名は *R. japonicus* var. *glabrescens* Freyn (1901) であろう。

\* \* \* \*

Recently Kitagawa (1966) and Tamura (1970) adopted the name *Ranunculus subcorymbosus* Komarov in a wide and emended sense so as to include stoloniferous East Asiatic races of the *R. acris* group which have been referred to *R. grandis* Honda (Hara 1943, Hara & Kurosawa 1956).

*R. subcorymbosus* (1914) described from Kamchatka was correctly illustrated by Komarov himself in his Fl. Penin. Kamt. 2: t. 14 (1929). In 1954 I have examined its authentic specimens at Kew and Paris, and noticed that they lack subterranean stolons and are different from *R. grandis*. To make sure, I have asked the Komarov Botanical Institute at Leningrad to give me more informations on *R. subcorymbosus*. Although Komarov has not designated the holotype, the photograph of the lectotype specimen, which was here reproduced as Fig. 1, was kindly sent to me. The lectotype agrees well with the figure by Komarov mentioned above. I wish to express my sincere thanks to Dr. I. T. Vassilczenko, Head Curator of the Herbarium for his kind help.

*R. subcorymbosus* has glabrous stems, hairy peduncles and young leaves with appressed hairs, larger flowers, and somewhat uncinat styles, and lacks long creeping subterranean runners. It is nearer to *R. acris* var. *nipponicus* Hara (*R. novus* Lévl. et Vnt.) than to *R. grandis*.

**Ranunculus grandis** Honda in Bot. Mag. Tokyo 43: 657 (1929), emend. Hara in Journ. Jap. Bot. 19: 359 (1943)—Ohwi, Fl. Jap. 525 (1953); ed. Eng. 448 (1965); ed. rev. 610 (1965)—Hara et Kurosawa in Bot. Mag. Tokyo 69: 346 & 350, f. 2, 4 & 5 (1956)—M. Kikuchi in Ann. Rep. Gakugei Fac. Iwate Univ. 11(2): 68 (1957), var. *mutsuensis* et var. *akkanus* M. Kikuchi

—Kitamura et Murata, Col. III. Herb. Pl. Japan 2: 245 (1961)—Hultén in Ark. f. Bot. 7: 58 (1968); Fl. Alaska 485 (1968), var. *austrokurilensis* Hara.

*R. subcorymbosus* sensu Woroschilov, Fl. Soviet Far East 212 (1966), quoad pl. ex Kuriles—Kitagawa in Journ. Jap. Bot. 41: 364 (1966), cum var. *grandis* (Honda) Kitagawa—Tamura in Acta Phytotax. Geobot. 24: 165 (1970), cum subsp. *grandis* (Honda) Tamura.

Distr. C. & N. Honshu (rare), Hokkaido, Kuriles, Aleutians, Saghalin, Ussuri, Korea, and Manchuria.

**Ranunculus subcorymbosus** Komarov in Fedde, Rep. 13: 234 (1914); Fl. Penin. Kamt. 2: 145, t. 14 (1929)—Fl. URSS. 7: 469, t. 27, f. 3 a-d (1937)—Woroschilov, Fl. Soviet Far East 212 (1966), excl. syn.—Kitagawa, l. c. 364 (1966), pro min. part.—Tamura, l. c. 165 (1970), pro min. part.

*R. acris* var. *subcorymbosus* (Komar.) Tatewaki in Journ. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 29: 268 (1933), quoad syn.

Distr. Kamchatka.

**Ranunculus japonicus** Thunberg

var. *glabrescens* Freyn in Oesterr. Bot. Zeits. 51: 379 (1901).

*R. japonicus* var. *pratensis* Kitagawa, Lineam. Fl. Mansh. 224, t. 7 (1939)—Tamura, l. c. 165, f. 2 (1970), ssp. *akagiensis*.

*R. japonicus* var. *glabriusculus* Hara in Journ. Fac. Sci. Univ. Tokyo III, 6(2): 52 in adnota (1952).

○カタボウシノケグサ北九州に帰化 (大井次三郎) Jisaburo OHWI: *Scleropoa rigida* naturalized in Kyushu

欧州原産のイネ科の一年草, *Scleropoa rigida* (L.) Griseb. が北九州市の新日鉄工場内に帰化していたのを, 1968年に岡山リエ氏が採集, 北九州大学の畑中健一氏を通じて拝見した。この標本は東京上野の国立科学博物館におく。この植物は全形ややウシノケグサに似ているが根茎のない一年草で, 円錐花序は一方に傾いて小穂をつけ, 小穂の穎は先が鈍くて芒がない。

(横須賀市 XXXXXXXXXX)